

白山ふるさと文学賞

第六回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」〉

小学生5・6年の部 優秀賞

母への感謝

広陽小学校六年

藤田 ふじた

琉加 るか

私は、二年生からそろばんを習っています。私のそろばん教室では三泊四日の大阪合宿があります。五年生の時、初めて参加資格を得ました。そろばんの先生に、「大阪合宿、参加できるよ。」と、言われて母に相談しました。すると、母は、「行ってみればいいんじゃない。」と、言いました。でも、その時の私は、家族と三泊四日もはなれることがいやで、そのチャンスをはたしてしまいました。

そして、六年生になり今年もその資格を得ることができました。今年は、母にも相談せず、一緒に行く友達もいたので参加しようと思っていました。大阪合宿申し込み間近になって、友達が「家の事情で行けなくなった。ごめん。」と言いました。その時私は、「じゃあ、私も行きたくない。」と、母に言いました。すると母は、「そんな。友達が行かんからって自分が行かんのっておかしくない。だって遊びに行くんじゃないし、そろばんに行くんやから、一人でもがんばって行つて来て。」と言いました。その母の言葉を聞いて、私は、はらが立ちとてもいやな気分になりました。一週間ほど悩みました。申し込み直前まで、迷っていました。でも、母は直前まで、「こんなチャンスはもうないし、そろばんも上達するから社会勉強として行つてこんか。」と、最後まで私を勇気づけてくれていました。私は、しぶしぶ行くことにしました。

当日まで、ずっと行くのが不安で仕方なく行きたくない気持ちでいっぱいでした。そしていよいよ当日になりました。母と、金沢駅に行きました。私は、とてもドキドキしてきんちようしました。荷物を持って改札口に向かいました。

三泊四日のそろばん合宿が始まりました。一日、朝から晩までずっとそろばんをしました。それがなれてきて楽しくなってきました。その時、私は母のあの言葉がなければこの楽しさをあじわうことが出来なかったと思うとても母に感謝しました。

そして、やっと三泊四日の長い合宿が終わりました。帰りに、大阪駅で家族へのおみやげを買いました。始めはおかしやキーホルダーを一個

ぐらしか、買っていませんでした。でも、母や家族が応えんしてくれていたのも、もう一度お店にもどっていっぱいおみやげを買いました。合宿に行つてそろばんがとても上達しました。この合宿で母や家族と三泊四日はなれてみて、今まで毎日母が朝起こしてくれる事が、当たり前ではないことに、気が付きました。合宿では自分で起きて何もかも自分でやるが多かったから、とても大変でした。だから、母はいつもすごいなと思いました。とても感謝しました。

初めは、勇気がなくてあまり合宿に行きたくありませんでした。でも、母の言葉で行つて良かったと思いました。私は、合宿へ行った事がきっかけで母への思いが少し変わりました。例えば、母はいつも「もうちょっと考えて行動して。」「頭使つて。」と、はら立たい事を言ってきます。けれど私を思つて何でも言ってくれるので、それが逆に、とてもありがたいことだなあと思いました。

今でも、その日から母にたよりつきりであまり変わっていないような気がするけど、自分なりには少しは成長しているのかなあと思っています。これからも、母と文句の言い合いをしながらも一緒に楽しく成長していけたらいいなと思いました。ここまで私が成長できたのは、母の口うるさい文句のおかげではないでしょうか。そう思うと、とても感謝しています。この先、悩むことがあつたら母の言葉を思い出してみようと思つて思いました。